

グループ活動紹介

佐賀県品質工学研究会 における活動

佐賀県工業技術センター 材料環境部
平井 智紀

Group
Activities

1. はじめに

佐賀県品質工学研究会（以下、当研究会）の誕生は1992年2月で、今年で25年目となる。

主催している佐賀県工業技術センター（以下、当センター）は、佐賀県の現地機関であり、一般的に地方公設試験研究機関と称されている。

当センターと品質工学の出会いは、1982年に計量研究所（現・産業技術総合研究所）に勤務していた矢野宏に、元職員の田中久がSN比について3か月間の指導を受けたのが最初である。その後、1990年に国の補助事業で品質工学を用いた研究を行い、翌年に事業の普及講習会を開催した。その講習会に参加した企業の技術者を中心として研究会が発足した。発足時、研究会は（財）佐賀産業技術情報センター（現・（公財）佐賀県地域産業支援センター）が主催し、当センターは事務局を担当していた。2006年から主催が当センターに移り、佐賀県の予算（事業費）で活動を行ってきた。筆者が初めて品質工学及び当研究会に関わったのは、丁度この時期である。

現在、当センターの職員2名が事務局として、研究会を運営している。

2. これまでの主な活動

発足時のメンバーは11社20名であり、1年目は品質工学を理解するために「計測設計」、「おはなし品質工学」などをテキストとして、輪講形式の月例会を開催したが、品質工学は実践が重要であることから、2年目からは単なる勉強は止めて実践形式の

活動を行った。

毎年、会員企業から「技術開発計画書」を提出してもらい、計画書に関して全員で議論し、実験計画書の作成、実験の実施、データ解析、実験結果の評価というサイクルで活動を行ってきた。特に、実験計画段階は十分な検討が必要なため、8月は独立行政法人（現・国立研究開発法人）産業技術総合研究所の石田一を招聘し、個々の実験計画への助言をお願いしてきた。

また、品質工学の有効性を広く企業等に認知してもらうため、1年間の活動成果を「品質工学研究会成果発表会」として一般に公開してきた。平成27年5月までに、22回を開催し、106テーマを公開している。

3. 研究会の課題

当研究会の発足以来、会員数は徐々に増加し、2005年から2009年までの5年間の平均は42名であった。しかし、2011年から2014年の平均は17名と大きく会員数が減少した。これまで研究会を牽引してきた田中久の退職とリーマンショックによる参加企業の事情が要因として大きいと分析している。

会員数が減少している中でも、毎年新たな入会はある。しかし、5年以上のベテラン会員（事務局を除く）が2名になったため、会員同士の議論が少なくなり、事務局からの助言に終わる状況になっている。

実践形式の活動において、問題となっているのが企業の技術情報の取り扱いである。会員の中には、